

看護 しずおか KANGO SHIZUOKA

vol. 
平成26年度

- ナースセンターの機能が変わります
登録が簡単に・届け出努力義務化 P4・5
- お仕事拝見 第6回
住民同士のつながりを取り戻したい! P6・7
- 先人に聞く 忘れられない看護 看護を政治に P3
- 看護職ウォッチャー!! 第4回
看護師さんに励まされ今を元気に! P8



1月1日生まれの赤ちゃんです(生後3日目)磐田市立総合病院

会員数 19,196名(平成26年12月9日 現在)

●保健師	533名	●看護師	16,937名
●助産師	747名	●准看護師	979名



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



これからの看護

～病院から暮らしの場へ～



会長 望月律子

新年明けましておめでとうございます。

会員はじめ、関係諸機関の皆さまのご理解とご支援を受け、静岡県看護協会事業が順調に推進しておりますことを心からお礼申し上げます。会員数も1万9千人を超えました。“数を力に”より一層期待に応える事業展開ができるよう邁進してまいりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

さて、2025年にさらに1年近づきました。「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立し、看護職の役割は「病院から暮らしの場」へさらに拡大していきます。病床機能分化が進む中で、各期に応じた専門性の高い看護の提供と共に、医療と介護を繋ぎ、治療の場から生活の場への切れ目のない支援、在宅療養の要である訪問看護ステーションの機能強化など、時代のニーズは急速に変化しています。第3回静岡県看護学会のテーマは「つなげるための看護力—あなたは何をつなげていますか—」です。一人ひとりが実践から積み上げてきた「看護とは」を問いながら、時代が求める役割に備えることの重要性を感じています。

また、少子超高齢社会は、女性と高齢者の働き方が見直されているなかで、看護職の働き方やキャリアアップへの取り組みが注目されています。

県には「ふじのくに医療勤務環境改善センター」が開設されました。本年10月からは看護職の届出制度がスタートします。特定行為研修制度も施行に向けて準備が進められています。人材確保やキャリアアップへの成果に繋がるよう、法施行に着実に備えてまいります。

今も、将来もこんなに看護職が渴望されている時代はありません。時代が看護職に求める課題は山積ですが、期待を引き受け、会員皆さまと共に、地域に存在感ある職能団体としてさらなる発展を目指したいと思います。昨年も協会には多くの方が来訪してくださいました。協会事業への奇譚のないご意見をお寄せください。

雪害で困窮している地域に思いを馳せ、温暖な静岡で暮らせることに感謝し、本年が良き年になりますよう祈念申し上げます。

看護の流れを肌で感じてみよう

平成28年度日本看護協会代議員及び予備代議員募集

代議員10名と予備代議員21名を募集します。平成28年度日本看護協会総会の開催日程及び会場は未定ですが、全日程への参加ができる会員の方に限ります。看護協会の事業に参画するチャンスです。積極的に応募してください。

- 【応募期間】 平成27年2月1日(日)～2月13日(金)
- 【応募要領】 往復はがきにて下記事項を記入し、静岡県看護協会へ送ってください。
- 【記載事項】 ①代議員か予備代議員の別 ②氏名 ③年齢 ④職種
⑤勤務先 ⑥連絡先住所(自宅または勤務先)
- 【宛 先】 〒422-8067 静岡市駿河区南町14番25号エスパティオ3階
公益社団法人静岡県看護協会 選挙管理委員会 宛



先人に聞く 看護を政治に 忘れられない看護

第2回

白松万里子さん



Vol.4(11月号)に引き続き白松万里子さんのインタビューをお届けします。

映画鑑賞とダンスホール

学生時代の唯一の楽しみは映画鑑賞でした。当時は2本立ての映画が多く、日曜日になると一日中映画館に入り浸っていました。すごく映画が好きでした。しかし洋画オンリーで、邦画は全く見たことがありませんでした。洋画の良さは、まず全てが洗練されていて、俳優も美しく、景色も抜群、生活環境もその頃の貧しい日本と比べて天と地の差、役者の交わす言葉の妙、英語も多分学べる(?)等々。とにかくたくさん見ました。将来は外国に行くのが夢でしたから。

また、ダンスホールにも行きました。赤十字の厳しい規律の中でも、それは禁止されてはおりませんでした。いわゆる社交ダンス場で、ワルツやブルース・タンゴ・ジルバ等々踊ります。それは七間町にあって、男子も紳士、女子も淑女、きちとした社交場でした。でも、洋画ばかり見ていた私には、ハンサムな紳士が見つからず、残念ながら素敵なお人との出会いはありませんでした。

《ナース時代》……………

新任ナース時代

看護学校を昭和30年に卒業し、それと同時に私と同級生2人は伊豆赤十字病院に1年間派遣を命ぜられました。この病院には主に結核患者が入院されていました。

当時は炎症性疾患が主流でした。今のように抗生物質も無く結核も非常に多く、胃潰瘍・虫垂炎・回虫症・腎炎・法定伝染病・心臓弁膜症等々、今では考えられないような時代でした。

また一般の人の衛生思想も非常に低かった時代でした。

石器時代の医療現場

聴診器とレントゲンがなによりの医療機器で、現代の優れた医療機器は夢のまた夢。薬剤もまだまだ未発達で、優れた効果が期待できるものはあまりなかった。治療法も未知のものが多く、医師も治療に苦心し、とても大変な時代でした。現代の医療から比べると『赤子の医療』の感がします。

併せて物資のない時代でしたので、いろいろと工夫・節約に努めました。ガーゼ・包帯等も再生して使いました。ガーゼは洗濯したものを2人で伸ばしカストに詰めて、オートクレープで消毒して使いました。包帯も洗濯し手動の簡単な機械で巻き、再利用しました。このように再利用しなければ物がありませんでした。また注射針も注射器も、すべて消毒して使いました。

現代のように多くの医療器具が「ディスposable」など、夢にも考えられない時代でした。まさに医療の『石器時代』と言えるでしょう。



◀ナース時代
(中央)

洗面器いっぱいのお血

伊豆赤十字病院の入院患者は、結核の患者さんが多く、膿盆じゃなく洗面器いっぱい、がぼがぼと咯血をする(気泡の入った赤い血液)。このまま死んでしまうのではないかと思う。このような人はとても痩せていて、手術の対象ではないと聞きました。結核ってすごい病気なんだと再認識をし、初めて見るものすごい光景に身震いを覚えました。入院期間も数か月から2年3年と長期にわたり、亡くなる方も多くおりました。

温泉街の心中事件

派遣地の病院は温泉街の近くにあったので、救急で心中を図ったケースが運ばれてくることが多かった。睡眠剤を服用しているので、すぐ胃洗浄をします。服用量によっては亡くなる人もいますが、大方の人は助かります。意識が朦朧としているため、病室中に響き渡るような大声で相手の名前を呼び合う。助けた事が良かったかどうか複雑な気持ちを感じた事も何回もありました。温泉街近くの病院ならではの、体験であり光景でしょうか。

とにかく新人ナースには、何とも刺激の強い経験でした。

“コート”と“オーバーコート”

私の駆け出しの頃の日本の社会一般は、衛生状態が悪く、回虫症が多かった。今は水洗トイレですが、当時は汲み取り式のトイレで、畑の野菜等に肥料の代わりに人糞をかけていました。人糞の中には回虫卵が存在していて、それが野菜について、その野菜を食べていたから、回虫卵が体の中で成虫となって繁殖し、内臓壁から血液などの成分を吸い、貧血の症状を起こしました。

ひどくなると手術をして、回虫を取り除くこともありました。すると回虫が“とぐろ”を巻いたり、腸を閉塞させていることもありました。回虫駆除や予防として「海人草(カニンナク)」の煎じ薬を飲んで、回虫の駆除をしました。

その頃の笑い話…当時は内科に受診するときは必ず“便”を持ってくるよう患者さんに言います。当時医学用語はもっぱらドイツ語で、便のことは“コート”といていたので、患者さんに説明した人が「次にいらっしゃる時には“コート”を持ってきて下さい」と言ってしまいました。その患者さんも、「なぜコートを持ってこいというのか不思議に思った」と言いましたが、次の受診日には真夏ののに、オーバーコートを持ってきたというエピソードがありました。

手術室勤務

昭和31年4月から静岡に戻り、耳鼻科主体の混合病棟に配属されました。昭和33年からは、手術室勤務となり8年間勤めました。

手術室の勤務は病棟勤務のように、定められた夜勤はありませんが、年中毎日の終了時間は未定で、平日・休日、夜も昼も関係ありません。必要があれば何時でもスタンバイ、これが手術室なのです。ちなみに毎日の平均帰宅時間は、夜の8時頃でした。

家に帰って食事を一口入れるか入れないかの時、電話のベルが鳴り、「今からカイザーがあります」「開頭術がありますから」と何回呼び出されたことでしょう。そんな時間からの手術は、終わって外を見ると空が白々として、夜が明けるという状況でした。

それでも、翌日は8時30分に出勤し、休むなんてことはありませんでした。それは決して良い労働条件とは言えませんが、文句を言うスタッフも、一人としていませんでした。

私は自ら選んだ職業であり、役割でもあるからと心に決めていましたが、これをもって叩き込まれた『愛と奉仕の精神』そして使命感がそうさせたのでしょうか。

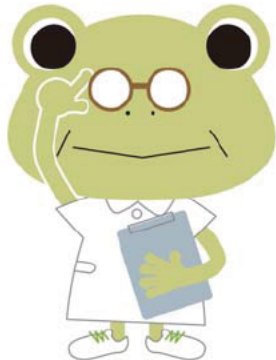
Vol.6に続く

ナースセンターの機能が変わります!

登録が簡単に!!

2015年4月～

新サービスを追加!!!



★らくらく登録(登録に必要な項目刷新)

・ユーザー登録:4項目 基本情報:13項目

★らくらく求人検索

- ・ユーザー登録でも施設の検索ができる
- ・基本情報を入力すれば全国の施設に直接応募ができる
- ・施設が地図上から検索できる

全ての操作がスマートフォンでも可能



求職者がユーザー登録をしていない場合でも、求人検索(体験版)ができます

求職者と求人施設のユーザー登録をします

ユーザー登録済みの求職者と求人施設がログインします。ログインするとMYページが表示されます



パソコンやスマートフォンが苦手な方は、ナースセンターに電話又は来所してください。
ナースセンターでは、紙ベースで求人票を閲覧できます。

離職時などに ナースセンターへの届け出が努力義務化となる

2015年10月
看護師等人材確保促進法が改正



- ①病院などを離職した場合、看護師などは「住所・氏名・その他」厚生労働省令で定める事項を、都道府県センターに届けよう努めなければならない。
- ②病院などの開設者は届出が適切に行われるよう、支援に努めなければならない。



ナースセンター



離職時などの「届け出」努力義務

- ・離職時、施設での登録推進のご協力をお願いします。
- ・ナースセンターでは就職あっせんや情報提供など、きめ細やかな対応で復職を支援します。

総合的な復職支援(情報提供)、潜在化予防



※2015年10月からは、現行通り退職時に記載する、ピンクのナースセンター登録用紙で対応します。施設での登録推進のご協力をお願いします。

読者の広場

毎日のケアや患者さんとの会話の中で思う事、ドキッとする事が書かれていました。看護師はみんな真面目です。でも慣れてしまえば“正しいこと”が見えなくなることがあります。倫理的な配慮を持って行動しなければならないとあらためて感じました。このような看護師でない方の看護師への思いや意見は私たちにそのような機会を与えて下さい。

先人に聞く、白松万里子さんの体験談。お言葉から戦後の厳しさ、当時の看護師に求められる完璧さを感じました。大先輩のお話に背筋が伸びる思いです。

募 集 し ま す



募集1 「看護しずおか」表紙

看護しずおかの表紙を飾る写真を募集します。

テーマ：看護のある風景（家族など看護職でなくても結構です）

募集2 読者の広場

皆さんに知らせたい、知ってもらいたい「活動」や「意見」などなんでも結構です。写真などもご自由に投稿してください。

募集3 クイズ さて、わかるかな？

クイズの問題を募集します。どんな内容でも結構です。

皆さん、どしどしご応募下さい。お待ちしております！

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.shizuoka-na.jp/>

お仕事拝見

第6回

看護の知識や資格をいろいろな分野で生かしながら、第一線で活躍している方々のお仕事を、ちょっと拝見してみます。

住民同士のつながりを取り戻したい!



中村康恵さん



中西歩さん

～被災地岩手県山田町での保健師の取り組み～

平成23年3月11日に起きた東日本大震災の被災地への支援が被災直後から続けられています。今回は、岩手県山田町(人口約17,000人高齢化率30%以上)に1年間、長期派遣された西部健康福祉センターの中村康恵さん(平成24年度派遣)と中西歩さん(平成25年度派遣)のお二人にお話を伺いました。

震災直後の短期派遣が心残り・・・長期派遣のきっかけ

東日本大震災直後から県と市町の保健師合同チームによる短期派遣が始まりました。

4月からの派遣先は、岩手県下閉伊郡山田町でした。中村さんが行った短期派遣は被災後2か月経っている頃で、中西さんは被災後3か月頃でした。被災後2か月頃には避難所での支援は大分落ち着き、地域で家に戻った方の健康管理のための家庭訪問が中心になり始めていました。3か月頃は、仮設に移られる方も出てきて、その方たちの健康管理で仮設回りが始まっていました。

二人とも短期派遣の時は、大変な思いをして被災地に着いたと思ったら、あっという間に終わってしまい、十分なことが

出来なかったと心残りがありました。

中村さんは先輩保健師から話があり、家庭的にも行ける状況であったこと、短期派遣での経験や心残りもあったことなどから通常の転勤で1年間行くのと同じだと思い、すぐに了承しました。

中西さんは、長期派遣の様子を『がんばっぺ!山田町～派遣保健師だより～』で読んだり、熊本の災害派遣に行ったことから、災害派遣が身近な感じになっていました。そんな時静岡県岡島のホームページに山田町への長期派遣募集があり、2年を経て町がどう変わったかを確認し、地域に入り込んだ保健活動をしたいと思い、自ら応募し派遣されることになりました。

町役場屋上からの町の様子(H23.7月)



(H24.7月)



(H25.7月)



「がんばっぺ!山田町～派遣保健師だより～VOL.3.17.22」より

「楽しく健康アップ教室」、「生活不活発病予防教室」を通して・・・

山田町地域包括支援センターでの派遣保健師の担当業務は、主に介護予防事業でした。中村さん、中西さんも担当しました。(平成24年の8月までは、伊豆市・富士宮市・磐田市の保健師さんも交代で派遣されていたので心強かったのですが、その後は県の保健師単独派遣になりました。)

主な活動の1つは、介護予防教室「楽しく健康アップ教室」です。この教室の対象者把握は、中・長期派遣保健師が雪の積もった時期に一軒一軒家を訪問し、すごい苦労したと聞きました。2つの地区で行い、20人～30人の参加で、6月から9回コースを週1回のペースで行っていました。

教室を3か月で終わらせないで、体を動かすことを継続していくためと住民同士のつながりを取り戻したくて、月1回のフォローアップ教室をあえて被害の多かった地域を会場に行いました。初めの年は住民主体といっても大変なので保健師が毎月開催し支援していくというスタイルで行ってました。それが次第に民生委員さんやボランティアさんが主体となってやっていく活動に発展し、住民同士のつながりもできてきました。

中西さんの頃は、住民の自主活動が活発になっていました。参加者の中には、仮設には友達がいるけれども、家に戻ったら、周りに人がいないし、人に関わるのがなくなるとい

うことで、1時間かけて歩いて会いに来ている方もいました。「人に会えるということが楽しい」「仮設から出て、生活は楽になっても人とのつながりが希薄になってしまって寂しい」と言っている人は多かったです。

また、在宅に戻った方と、仮設に残っている方の話を聞くと、時が経つほど被災の差がそれぞれの心の隔たりを生んでいることを感じました。だからこそ、こういう教室を通して、もう一度地域を一つにして人とのつながりを取り戻したいという気持ちを強く抱きました。

そのほか、被災して仮設に閉じこもってしまったり、交通機関がなく行き場をなくした在宅の方を対象にして、「生活不活発病予防教室」を他の支援者と合同で行ったり、老人クラブ主体や単発の教室を行いました。

また、訪問リハを岩手県内の理学療法

士と連携し、一から考え始めました。保健師が対象者把握のための事前訪問、当日の問診と健康チェック、理学療法士がその人その家にあたりハビリ、と役割分担をして行いました。受ける前は「リハビリなんて…」と言っていた方も多かったのですが、とても好評でした。お試して始めて、1年後には軌道に乗りました。



血圧測定を行っている中西さん



教室を行っている中村さん

80歳でも筋力向上!住民パワーから力をもらおう!!

教室に誘っても、「もう年だから」とか、「人が集まるところに行くのが嫌だ」と消極的な住民。第1回目の教室の体力測定だけで「疲れて次の日に寝込んだ」と言われたり、最初は休みがちだった参加者に「今では生きがいだ」と言ってもらえたり。休まず来てくれる人が本当に多くなって、来てくれる人たちと一緒に教室



山田町の方と中村さん

室を作っていた感じがありました。また、80歳過ぎていても筋力が向上するということは聞いていたけど、実際に教室参加者の変化を、目の当たりにし驚きました。当初、参加者は何をやらされるんだろ

うという感じでしたが、だんだん笑顔が多くなり、仲間同士の会話がが増えていきました。「スーパーで会って話をした」と参加者から聞くと、教室で顔見知りになり、地域に帰ってからも繋がっているんだと感じました。

また、ボランティアさんも「私にはできない」と最初は及び腰でしたが、閉じこもっている高齢者の方に声をかけてくれるなど積極的に参加してくれました。参加者はほとんどが75歳～80歳代の方で、60歳代の方がボランティアを兼ねていました。

被災して大変なのに、それを感じさせない。大変なのを大変って言ってない。ほとんどの方が知り合いを亡くしているのに、それを微塵も感じさせない。そこから住民のパワーを感じると同時に私たちの方が力をもらいました。

山田町ならではの体験

家庭訪問は、津波により町並みが変貌し、手書きの地図を頼りに目的地に向かって目印がないため、建物が見えていてもどうやって行ったらよいか分からないことも多々ありました。また、言葉の方言とイントネーションの違いで聞き取れず、異国の地に來たようで耳に慣れるまでに3か月くらいかかりました。職員宿舎としてお借りした仮設住宅では、隣の80歳の女性が煮物を持ってきてくれ、逆に支援してもらった感じがした。

殖業が盛んで、カキ、ウニ、いくらなど海のものがおいしく、コレステロールの多いものがたくさん捕れます。スーパーでのお惣菜は味が濃いものが多いし（実際に高血圧の方が多いです）、甘いものも多いと感じました。お雑煮もおもちを出して、クルミと砂糖の甘いたれにつけて食べるんです。二人とも1年間で体重が確実に増えました。

「5分あればとにかく逃げる!」・・・津波から身を守った山田町の方々からのメッセージ

静岡県も地震や津波がくると言われていますが、津波が到達するまであと5分と言われると、5分じゃ逃げられないなと思うかもしれませんが、山田町の方たちは口をそろえて「5分あればどれだけ逃げられるか!」って言うんです。「とにかく逃げよう」と

いう教育が大事、あきらめてはいけない」と言われます。あの津波を生き延びた方達だから「5分しかない」と弱気なことは絶対言わない。老若男女だれからも言われたので、それだけは静岡県民に伝えなくてはと思っています。

山田町と住民の皆さんの復興を願う

漁師と農家の方が多く、仕事も家も家族も失って土地を離れた人もいましたが、被災直後から仕事を再開されている方もいました。「仮設で葬式は出たくないから・・・」と家を建て直したり、被災した直後からあきらめない気持ちがすごいと感じまし

た。反面、「海は見えるけど海の近くには行けない」とか、たまたま被災しなかった人は負い目を感じているなど、1対1で話すとやはり、皆さん心に闇、悲しみを抱えていると感じました。高齢者に負担の少ない新しい町が復興していくことを願っています。



山中幸子さん

看護師さんに 励まされ今を元気に!

看護職の姿は患者さんなどにどのように映っているか……。自分達の姿を知る鏡として、看護職をよく知る方々にお話を伺っています。

第4回目は、御自身の病気治療を抱えながら、同居の義父母の同時介護を5年間続けてきた山中幸子さんにお話を伺いました。

ご両親の介護で感じたことは……

同居の義母の人工肛門のパウチの処置をしながら義父の膀胱洗浄と、無我夢中で5年余り同時介護の日々を送っていました。その間、持病の治療に加え、転倒して手首の骨折と膝の半月板損傷で歩行困難となり痛みに耐え、杖を頼りに在宅介護を続けていた時もありました。幸い看護師さんの資格を持つケアマネージャー、デイサービス、ショートステイの施設の看護師さん、病院の看護師さんに随分助けられました。義母が去りその1年後義父と、二人を静かに看取ることができました。



一番安心感を与えてもらったエピソードがあります。ある日、天ぷらをしようと生ガキをテーブルの上に置いて、庭のパセリを取りに行き戻ってきたら、生ガキが無くなっていました。玉ねぎと人参もかじってあったので、義父に聞いたら「それは私が食べました」と言うんです。生ガキ8個です。そのあ

と「やわらかくておいしかったです」ってにっこりしてたんです。以前、仏壇の供物を食べて下痢がひどかったことがあったため、急いで病院へ電話しました。

看護師さんからは、「食べ物を食べたんだから様子をみて、結果を待つしかないですね。もし具合が悪かったら夜中でもいいから、いつでも来て下さいね」と言われました。一睡もしないで様子をみていましたが、義父は朝まで何ともありませんでした。翌朝、看護師さんが「タベ電話がなかったけど、どうだった?」と電話をくれたんです。本当にありがたいなあと思いました。介護している身としては、ちょっとした言葉かけや心遣いがとても嬉しかったです。

また、介護でのストレスを打ち明けるため

に介護ノートを書いていました。それに対して看護師さんも書いてくれました。精神的にも限界に達していた自分を励まし、助けてくれたことに感謝しています。

御自身と看護師との関わりでは……

介護生活が終わり3年の月日が流れました。自分の通院(私の思いを受け止めてくれたお医者さんにも感謝)は続くものの、持病の自己管理が出来るよう努力しています。

実は、通院して週2回注射をしています。注射は大の苦手です。右の手、左の手、手の甲にまで静脈を探す看護師さん。針を入れて、ぐいぐいと掘り下げる看護師さん。「もうやめてー」って言いたいけど……。失敗した看護師さんの顔を見ると緊張してしまい、手に汗を握る患者の私。看護師さんのチェンジも何度か……。いつしか看護師さんを指名するわがままな心が叫ぶ時もありました。寒い日には、血管が出やすいように手袋はめてホッカイロ握って温かくしていました。長い年月の中でこの頃、ようやく注射を受け入れられる心と血管になってきました。

これからも血管の出にくい私の採血や注射がスムーズにいくことを願っています。

看護師さんの笑顔、交わす言葉に心癒され、今を大切に、元気に過ごしたいと思っています。



ケアする人のケア 遺族会（スイートピーの会） グリーフ・ワーク

訪問看護ステーション掛川所長
赤堀奈緒子

訪問看護ステーション掛川では、グリーフ・ワークの一環として本年度から、ご自宅で看取りを経験されたご家族をお招きして遺族会（スイートピーの会）を開催することになりました。

この会の発足は、ある出来事に遭遇したことがきっかけとなりました。在宅において10年来親御様を介護され看取ら



れた後、自身がうつ状態となり体調を崩された方がいたことから、「ご家族の看取りを経験したものと、悲嘆の気持ちを分かち合い思い出を語ることで一歩前に踏み出せないか」と考えたことからでした。秋晴れの午後、16名が参加され語り合いました。大切なご家族の最期の日々と一緒に支え合ったご遺族と看護師は、当時を懐かしみ涙したり笑ったり、あっという間の2時間でした。奥様を見送り、独り身となったある男性は「一人になってから、ほとんど出かけずにいた。今日は心に少し灯りが点った気がする。前を向いて行けそうです。」

と、会の始まりとは違う明るい笑顔で話されました。後日連絡をとってみると、この会をきっかけに外に目を向け外出できるようになったそうです。ご遺族を労いながら、私たちスタッフにとっても癒された時間となりました。



※グリーフ・ワークとは、身近な人を亡くすなど喪失を体験した時、喪失の事実を受け入れ人それぞれの方法で悲嘆の苦痛を乗り越え人生に新たな意味を見いだしていく心の過程をいいます。

※スイートピーの花言葉は別離、新たなる門出

eラーニング活用 訪問看護師養成講習会 「集合研修 呼吸リハビリテーション」 慢性呼吸器疾患療養者への呼吸介助法



第3回目の集合研修は演習が入るため、研修生は動きやすい服装でいきいき参加しました。静岡県立総合病院呼吸器内科医師の秋田剛史先生、リハビリテーション科理学療法士の石井雄一郎先生、介護老人保健施設はるかぜリハビリテーション科理学療法士の山下敏寛先生より、「呼吸リハビリテーションの基礎知識」「理論と実際」「在宅における呼吸リハビリテーション」の講義と実技指導を受けました。

秋田先生から呼吸器の解剖生理、在宅でも関わる事の増えている「慢性閉塞性肺疾患COPD」について、解りやすく丁寧な講義を受けました。

午後の実技指導では、聴診器をあてて全肺野の呼吸音の聴取方法を確認した後、体位を変えながら呼吸介助法の指導を受け、互いに実践して確かめていきました。受講生は、自分たちの手技を確認するために積極的に講師を呼び、指導を受けていました。

増加している慢性呼吸器疾患のある療養者への看護ケアは、療養指導、栄養管理、効果的なリハビリテーションと頭を悩ますことが多く、明日からの実践につながる研修となりました。



みんなでワイワイ、ガヤガヤと楽しくかつ真剣に、効果が感じられるか率直に意見交換しながらの実技演習。

1 摂食嚥下障害患者の看護—応用編—

12月22日・23日に、摂食・嚥下障害看護の認定看護師 藤森まり子氏、田中直美氏を講師に迎え、研修が行われました。今年度は、昨年度までの基礎編でも学習した摂食嚥下障害に関する知識や技術を活用し、臨床で出会う様々な症例に応用していけることを目指しての研修となりました。

初日は、摂食嚥下障害の評価を、ロールプレイや演習、実際の嚥下造影の画像を確認しながら行い、嚥下訓練の方法を互いに実施してみました。2日目は、摂食嚥下障害に関するリスク管理、栄養法と嚥下調整食について、様々な症例に応じた対応についての講義がありました。

「口から食べる」ことができるということはその人のQOLにも大きく関わってきます。療養の場が病院から地域へ移行される中、「口から食べる」ことへの支援は益々必要となっています。そのためには日々の臨床場面で適切なアセスメントやアプローチを行い、どのくらい安全に口から食べることに繋がったのかを評価していくことが大切です。

本研修で得られた知識や技術が臨床の場で活かされ、安全に「口から食べる」ことができる方が少しでも増え、QOLの改善につながればと思います。

教育委員会 林 恵子



2 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程

平成26年度「脳卒中リハビリテーション看護」認定看護師教育課程は6か月間の課程を終え、12月16日に閉講式を迎えることができました。第4期生は青森から沖縄まで全国各地から高い志を持った8名が集まりました。

3か月間の講義(脳の解剖生理、障害発生メカニズム、脳・神経機能のアセスメント、重篤化回避の支援技術、早期離床と日常生活自立に向けた支援技術、生活再構築のための支援技術など)、演習、180時間の実習を通し、脳卒中リハビリ

テーション看護の実践・指導・相談に必要な学びを深めました。12月11日に行われた事例発表会では、8名それぞれが自分のテーマについて、講義で得た知識と実習での看護実践を整理・統合し、文献等で内容を深め論理的にまとめ発表する機会となりました。

脳卒中者が障害を持ってもその人らしく生きていくことができるよう、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の担う役割は大きく、活躍が期待されています。修了生はそれぞれの職場に戻っていきませんが、来年の5月に行われる認定審査合格に向け再学習していく予定です。

専任教員 小笠原 直美



お知らせ

1.平成27年度教育計画

ダイジェスト版を皆様のお手元にお届けしました。来年度の皆様のキャリア計画に役立ててほしいと願っています。詳細はホームページ又は施設に配布する教育計画の冊子をご覧ください。また、必要に応じて企画する研修についてはホームページやチラシで案内します。

2.平成27年度認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」

県内2回の開催を予定していましたが、H27年度後半に新たに県西部の民間施設で教育機関を開講する計画がありますので、協会の開催は前半1回に致します。なお、開催期間は5月～7月ですが詳細は教育計画をご覧ください。新規に開設する民間教育機関の募集案内は協会ホームページでもご案内します。

3.認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」

平成27年度は休講致します。

平成28年度は受講者数の確保が確認できたら開講する予定です。1月25日～2月16日に施設代表者に受講希望の実態調査を実施しますが、個人会員の方で受講希望やご意見がありましたら、教育研修部へご連絡下さい。

再就業支援のメールマガジン配信

26年12月22日より登録ができるようになりました

27年1月中旬に第1回情報配信しました

登録は静岡県看護協会 ナースセンターのホームページから!

あなたもメルマガ登録して「再就業」、「セカンドライフへの備え」への一歩を踏み出してみてください

再就業準備講習会

9回目の再就業準備講習会が終了しました。東部地区3回目は聖隷沼津病院が担当してくださり12人が受講しました。お世話になりました。参加者は現場の看護職の丁寧でわかりやすい講義により最新の医療・看護の動向や、治療・技術の変化に驚いたり、採血やBLSの演習で「あら、感触が甦ってきた!できそうかな」の感想が聞かれ、現在、次のステップの派遣型研修に進んだり、ナースセンターの就業相談員と相談したり、新しい年に向かってもう一歩前進です。



今年度は2月の静岡県看護協会での研修を残すのみとなりました。2月4日(水)・5日(木)・6日(金)です。看護の現場に戻ろうかなと考えていらっしゃる方、どうぞ1歩を踏み出してください。応援します。



再就業してやめないで頑張れるわけ!!

高齢者ケア施設に再就業して

ブランク歴23年、56才で再就職をしました。もう一度免許を活かした仕事に就きたいけれど「今更、この年齢で」という思いがあり、復帰することに勇気が出ず、足踏みしていましたが、ナースセンターの再就業支援により、一歩を踏み出すことができました。認知症通所施設で働いて1年が経ちます。施設見学に行かせていただいた時、ご利用者の方々の楽しそうな様子、職員の方々がとても丁寧に一人一人に接している姿を見て、就職を希望しました。働き始めて不安はありましたが認知症の型、症状、接し方、勉強する事はたくさんありますが、社内での研修、認知症学会等の出席などで知識を得ることができています。学んだことを仲間にも伝えたり、先輩ナースの方々との情報交換、アドバイスも不安解消や自信につながりました。また、休暇希望などをかなえていただいているのも続けられる1要因だと思っています。



再就業看護職を受け止めてサポートして下さる管理の立場から...

当施設の通所介護事業所では認知症のご利用者が多く、看護師は介護施設における認知症看護のスペシャリストを目指し切磋琢磨しています。教育・指導はOJTや研修会(毎月一)を通して実施し、「個別の残存能力に働きかける介護を行う」をどのようにして達成できるかを重点に行っています。介護施設における看護職は新しい分野です。さらに現場から長く離れた方にも分かり易く認知症の最新の情報を提供し、外部研修の参加も促しています。

就業に関しては、従業員個々の生活スタイルを考えたシフトを組み、小さい子供がいる方は病気等で勤務が出来ない時に、子育てが一段落しているスタッフがカバーするなど互いを思いやる良い職場の雰囲気が出来ています。これは高齢者ケアの現場でも生かされていて、看護職のみではなく働く全ての人が働きやすい環境に繋がっていると思います。

ナースセンター本所の開所時間延長についてお知らせ

県ナースセンターでは、さらにご利用いただきやすいよう就業相談の時間を変更しました。(本所のみ)

月曜日 9時~16時

火曜日~金曜日(4日間) 9時~19時(受付18時迄)

下田地区と天竜地区に県ナースステーションのサテライトを開設します

地域密着型の就業相談です。お気軽にお出かけください。

詳しくはホームページに掲載します。

下田地区/会場:賀茂健康福祉センター内

天竜地区/会場:北遠総合庁舎内

悩みごと相談

悩みは誰かに話しましょう。話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

【専用ダイヤル】

054-202-1780

看護師 職能委員会 **施設・在宅看護師職能交流会** **受講料無料**
「その人らしく生き抜くことを支えるために」 (会員外は、資料代100円)

■ **日時** 平成27年2月28日(土) 9:30~16:30
 ■ **場所** 静岡県看護協会 第1研修室
 ■ **内容** 基調講演テーマ「がん性疼痛看護の最新情報」
 講師 林さとみ氏(静岡県立静岡がんセンターがん性疼痛看護認定看護師)
 実践報告・パネルディスカッション
 ■ **対象** 県内の施設、在宅で働く看護師100名まで
 ■ **申込方法等** ホームページまたは、氏名・所属施設名・連絡先(住所・TEL・FAX)を
 明記の上、FAX(054-202-1751)から申込
 締切:平成27年2月16日(月)
 ■ **問合せ先** 総務部 TEL.054-202-1750

看護協会 総務部 **平成26年度「第2回静岡県看護協会・看護連盟合同研修会」**

■ **日時** 平成27年3月3日(火) 13:30~16:00
 ■ **場所** 静岡県看護協会 第1研修室
 ■ **内容** 「看護職が知っておきたい睡眠のメカニズム」
 講師 菅原 洋平氏(作業療法士、産業カウンセラー)
 ■ **申込方法等** 氏名・所属施設名・連絡先(住所・TEL・FAX)を明記の上、
 FAX(054-202-1751)から申込
 (睡眠に関して質問がありましたらお寄せください)
 締切:平成27年2月13日(金)
 ■ **問合せ先** 総務部 TEL.054-202-1750

医療安全情報 平成26年度 第5弾

医療安全推進のための標準テキストから ~医療安全推進のための基本的な考え方~

働き続けられる
職場づくり推進委員会

今回のテーマ “医療事故の中長期的対応”

医療事故の中長期的対応には、「事故原因の調査・分析・公表」や「再発防止策の検討と導入」などがあります。

「事故原因の調査・分析・公表」には、

- 1.事故原因の調査
 - 2.事故分析・検討
 - 3.報告書の作成とフィードバック
 - 4.公表の検討
- が必要です。

「再発防止策の検討と導入」には、

- 1.実行可能な対策である
 - 2.各医療機関の組織目標を考慮した内容である
 - 3.対策に根拠があり成果が期待される
 - 4.対策実施後の成果や評価の考え方を盛り込む
- を立案時に考慮することが必要です。

今回は、「事故原因の調査・分析・公表」の中の一つである「発生した医療事故の公表」の際、配慮すべきことを挙げます。

患者・家族、当事者の承諾

患者・家族、当事者には、ホームページを通じた公表や記者会見を行うことについて、あらかじめ承諾を得ておく。

プライバシーの保護

公表にあたっては厳重なプライバシーの保護に努める。

対応窓口の一元化

報道機関などの外部への対応に際しては、組織としての対応方法をあらかじめ準備し、混乱のないよう窓口は一元化することが望ましい。対応窓口や方法を医療スタッフに周知しておくとともに、通常業務に支障が生じないよう報道機関に協力を求めることも必要である。

「医療安全推進のための標準テキスト」は日本看護協会のHPからもダウンロードできます。

公益社団法人 日本看護協会看護開発部看護事業課 URL:<http://www.nurse.or.jp>



クオカードが当る!

次の4文字熟語の□に入る語を並びかえてひとつの熟語を作ってください。

在 宅 □ □

□ □ 千 万

答え. □ □

応募方法

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。正解者の中から、抽選で5名の方にクオカード(1,000円分)を差し上げます。当選者はVol.6に掲載致します。(ペンネーム可)

●下記を記入の上応募してください

◆答え ◆氏名 ◆所属 ◆電話番号 ◆〒 ◆住所
 ◆看護しすおか感想 ◆看護協会への御意見

お寄せいただいた御意見・御感想は、看護しすおかに掲載させていただくことがあります。

●締め切り: 2月20日(金)消印有効

●宛 先: 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
 静岡県看護協会 総務部 看護しすおかクイズ 係
 メールアドレス: kango@shizuoka-na.jp

当選者

●クイズ(vol.4)答え: 時 雨

●当選者: 山越奈美恵様・秋山美重子様・小杉明美様
 和泉啓子紗様・ペンネーム はるちゃん様